

「戦後レジーム脱却は日米関係に悪影響では？」

●うめ（仮）さんからの質問

戦後レジームからの脱却は、日米関係に悪影響があるのでは？そもそも戦後レジームは、アメリカ（GHQ）が主導したものであり、そこからの脱却は、見方によっては戦前戦中のアメリカ（及び西洋列強）の否定、アメリカの正義の否定にもつながり、アメリカの反感、ひいては日米関係のさらなる悪化を招きかねないのでは？

●西田昌司の答え

アメリカは日本を占領している間に、アメリカに都合の良い政治体制を作りました。現在でもその体制が続いていますが、アメリカの中でもいろいろな意見があります。日本はアメリカの領土の一部であり、日本の（事実上の）独立は認めずにアメリカの権益を守るべきだ、という意見もあります。一方で、アメリカが独立国であるのと同じように、アメリカ以外の国々も主権を主張するのは当然だ、という意見もあります。日本が真の独立を主張すれば、アメリカが聞き入れないこともないでしょう。しかし、日本が主張しなければ、アメリカから進んで日本の主権を尊重するような態度を示すわけがないのです。例えばTPPに関して言うと、アメリカにとってTPPはメリットがありますから、アメリカが日本に参加を促すのは当然です。しかし、日本にとってメリットがなければ、日本は参加する必要はありませんし、きちんと意思表示をすべきです。今回の質問は、そうは言っても日本とアメリカは同盟関係であり、アメリカの意向に逆らうと日米関係が悪化するのでは、と心配されています。しかしそのような姿勢で、日本はいつになったら真の独立を果たせるのでしょうか。

今までのアメリカの一極体制はもう終わりました。アジアでは中国の存在

が大きくなりましたが、中国を暴走させてはなりません。日本が真の独立国として、またアメリカの同盟国として、中国に対して軍事的圧力をかけられるようになれば、アメリカにとってもメリットがあります。日本は約70年前に外国との戦争に初めて敗れて占領され、今日までずっと占領体制が当たり前のようになっています。その呪縛を解くのは想像も出来ないように感じられるかもしれません。しかし、二千年以上続く日本の歴史のスケールで考えれば、今の体制はほんのわずかの例外的な期間ですし、それがいつまでも続くと考えるのは視野が狭すぎます。ところで、アメリカはいざという時に日本を守ってくれるからアメリカには逆らえない、という意見があります。実際に日本はアメリカのいわゆる核の傘に入って、非核三原則を振りかざしています。しかし、アメリカは本当に日本を守ってくれるのでしょうか。

最近の報道によると、日本維新の会代表の橋下徹大阪市長が「日本がアメリカの核の傘に入ることは必要」といった発言をしたらしいです。私は詳しいことは知りませんが、この発言には賛同できません。日本はアメリカの核の傘に入っているように見えますが、実はその傘は破れ傘なのです。もしもどこかのX国が日本に核攻撃をしたら、アメリカがX国に核の報復をする、というのが核の傘の意味です。しかし、アメリカは日本の為にX国に報復の核を打つのでしょうか。もしそうすると、X国はアメリカに報復の核を打ち返します。アメリカはアメリカ国民が誰も死んでいないのに、日本の為に核を打てば何十万・何百万のアメリカ国民が死にます。アメリカはこのような選択を果たしてするのでしょうか。その可能性は非常に低いでしょう。報復してくれなかったとしても、日本はアメリカに日米同盟の義務を果たせ、とアメリカに抗議できるわけでもありません。

尖閣諸島周辺での中国漁船衝突事件後、前原誠司外相がヒラリー・クリントン米国務長官と会談した際に、尖閣諸島は日米安保条約第5条の適用対象になる、との見解をアメリカ側が示しました。しかし、尖閣を中国に奪われた場合に、日本が何もせずに、ただアメリカに助けを求めてもアメリカが応じるわけがありません。日本が武力行使をして戦争状態になったら、アメリカも何らかの行動をしてくれるとは思いますが、それとてはっきりとは言

えません。結局は「自分の国は自分で守る」覚悟がなければ、日米安保も機能しません。アメリカが作った「戦後レジーム＝占領体制の延長線上の仕組み」の中では、日本は守られていると思っていても、実際は守られていないのです。

自国民を守れないような国は一人前の国ではありません。そのような国は世界からも全く信頼されませんし、国民も自国に誇りを持ってません。我々国民も、命を捨ててまでも国を守るという行為を否定してしまったら、我々の命の価値が色あせたものになってしまいます。誰もかけがえのない大切な命を犠牲にしてまでも国のために尽くすことが評価されないはずがありません。国のために自分を犠牲にすることを否定してしまえば、そんな価値あることに使うほど、自分の命は価値あるものではないということになり、結局は自らの命を否定してしまいます。自らの命の大切さを肯定するからこそ、それを捨ててまでも国の為に尽くすことの尊さがより際立つわけです。国は、現在の我々の存在よりもむしろ、先祖のお蔭で成り立っており、我々には先祖と同じ様に、国を次の世代に引き継ぐ義務があります。国を守ることは、何千億の先祖と何千億の子孫に対して責任を果たす行為であり、人間にとって最高の価値があることです。しかし70年近く、約二世代に渡ってこのような価値を忘れてしまった結果、今の国難の状況になっているわけです。もちろん「戦後レジームからの脱却」は簡単なことではありません。日本人が自らに刃を突き付けなければなりません。しかし、そこから逃げてしまったら、日本の未来はありません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>